

広島市を訪問中の駐日カンボジア大使のプー・ソティラク氏(48)に二十七日、市内のホテルでインタビューした。大使は二十余年も続いた内戦のつめ跡の深さとともに、国家再建に向けた日本や被爆地広島からの援助に「国民は勇気づけられている」と語った(5面関連)。(特別編集委員・田城明)

一米国留学中に広島を訪をより深く理解できた気がする。一七〇年以降に続いた内戦中ほどのような生活で見たかった。でも原爆資料館では、むじやけどを

シアヌーク政権が続いた七〇年まで地方の知事だった父は、十六歳の私をフランスに留学させた。七五年から米国の大学で学んだが、同じ年に政権に就いた親中派のボル・ポト共産主

義政権によって、母と弟妹四人が殺された。残ったの

文化大革命をまねて、生産手段の共有や完全な自給自足を目指し、都市住民を農村に送って重労働をさせた。子どもたちをわりやり(心的外傷)を抱えている。今も残る内戦後遺症

プー・ソティラク駐日カンボジア大使に聞く

国再建へ広島から勇気



1957年プノンペン生まれ。81年米大立州で務。ボタシアンで選挙当選。05年

は父と兄五人と私の七人。文化大革命をまねて、生産手段の共有や完全な自給自足を目指し、都市住民を農村に送って重労働をさせた。子どもたちをわりやり(心的外傷)を抱えている。今も残る内戦後遺症

一おぞましい殺りくはなせ起きたのでしよう。ボル・ポト政権は中国の殺した。狂気の時代がカンボジアを支配したというほ

たのも、自分や他人の心の傷を癒やすためだ。家族援護になるだろう。一カンボジアの復興に一番必要なものは、何よりも信頼される行政

機構や役人が必要だ。そのために政府は汚職防止や地方行政の強化などに取り組みている。国民の八割が依存する農業基盤を整備して生産性を高めるなどの努力も急務だ。

カンボジアの面積は日本の半分弱の18万1000平方キロメートル。人口約1300万人のうち1割は首都プノンペンに住む。1953年フランスの植民地支配から独立。70年に反中親米派によりシアヌーク政権が打倒されたのを契機に内戦へ。特に75年から79年まで支配したボル・ポト政権下で約200万人の住民が虐殺される。91年パリ和平協定合意。93年に国連監視下で初の総選挙実施。98年からプン・セン首相の下、連立政権が続く。立憲君主制。中立・非同盟外交を進める。

年間収入わずか300億。平和と社会的安定がないと国際的な復興支援も得にくい。外国企業の誘致や観光産業にとっても、平和な社会がなくては実現しない。内戦を体験した国民は、戦争を憎み、心から平和を求めている。ただ、それには経済発展によって人々の暮らしの向上が伴わなければならない。一人当たり

クリック

も内戦の後遺症といえる。一今なお残る膨大な数の地雷も内戦の後遺症といえますね。その通り。でも社会が安定してきた二十ほどでかなり取り除いた。政府の目標は、二〇二〇年までにすべての地雷を除去することだ。すでに日本政府の支援を得ているうえに、地雷除去のための小型無人ヘリコプターが広島県内の企業や県の協力で開発されていると聞いている。導入されれば目標達成に向け力強い援護になるだろう。一カンボジアの復興に一番必要なものは、何よりも信頼される行政機構や役人が必要だ。そのために政府は汚職防止や地方行政の強化などに取り組みている。国民の八割が依存する農業基盤を整備して生産性を高めるなどの努力も急務だ。